

東京税理士会足立支部支部長賞

「税は『相棒』」

足立区立 東綾瀬中学校

三年 浅川 湖月

先日、私は税についての授業を学校で受けました。それをきっかけに、今まであまり意識していなかった税を深く考えたり、調べるようになりました。すると、私は一つのことに気が付きました。それは、税は人生の中で常に隣にいる「相棒」だということです。なぜなら、税は一生涯で関心を寄せて関わり合う存在だからです。

これまでは子供の自分と税金は関係が薄いと思っていましたが、税について学んでいくことで子供が育っていくためには税金が深く関わっていることを知りました。子供は、税金によって色々な恩恵を受けています。学校教育を受けられるのも、医療費の助成も、公園で遊べるのも税金があるからです。

学校教育では学生にとってなくてはならない教科書や給食、校舎まで全てにおいて税金が使われています。調べてみたところ、公立学校の児童・生徒一人当たりの年間教育費の負担額は、小学生は約九十二万円、中学生は約百六万円だそうです。また、先生たちの給料も、税金で賄われています。大変多くの額が私たちの教育に使われていることがわかりました。

足立区では、十八歳になるまで医療費の無償化があります。私は今までに四度骨折をしています。本当ならその治療費は相当な物になっているので、多大なる恩恵を受けています。

公園も公共事業の一つとして税金が使われています。足立区は区内でも公園がたくさんある区です。私は今でも遊んでいるので、とても感謝しています。

大人になると、税との関わりも変わっていきます。子供の頃とは違い、今度は税金を納める立場になります。所得税など、税の種類は約五十種類です。そうして集められた税金の使い道は、議員が決定します。私は、自分が受けてきたものと同じような質の良い教育や医療などを、次世代の子供たちにも受けてほしいです。そのためには、自分が納税者になったとき、税金の使い道に関心を持つことが重要です。税を負担するだけで、その使い道に関心を持たなかったら、税金が本当に子供のために使われているかわからないからです。国税庁のホームページには、「民主主義の基本として政治への参加と国を支える税金を国民が負担することが対になっていきます。」と書かれています。これを読み、税を負担するだけではなく、その使い道を決定する議員を選ぶ選挙にも関心を寄せることが大切だと感じました。大人になったら、税を自分の身近なものとして常に関心を持ち、より深く関わっていくことが必要になると考えます。

以上のことから、生涯支え合っていく、「相棒」として税に関心を持っていきたいです。